

# 欧州 ほろ酔い物語



4

スイス西部ジュラ山系の山奥にひっそりとたたずむ集落バルドトラベールは、作家ボードレールや画家ゴッホら欧州の大物文化人を魅了した「禁断の酒」アブサン発祥の地だ。「人を狂わせ、殺人など犯罪の原因になる」という理由で20世紀初頭以降、約100

## スイス アブサン

### 「禁断の酒」完全復活

年にわたり欧州のほぼ全域で製造や販売が禁止されていたが、スイスでは2005年に解禁後、生産や輸出が飛躍的に伸び、完全復活の勢いを見せる。

原料は「ニガヨモギ」など複数の薬



スイス西部バルドトラベールのアブサン醸造工場で説明するキュブラーさん（共同）

など他地域でも順調に拡大した。スイスでは08年の生産が解禁当初の2倍超、輸出は15倍超に増えた。醸造業者らの次の目標は、商標権の徹底した保護だ。

「けさ書類を出してきた。ここまでの9年かかったが、大丈夫。うまくいくさ」。スイス最大のアブサン醸造業者キュブラー。祖父の時代からの会社を譲り受け、禁酒時代には自ら密造に関与したという経営者のイブ・キュブラー氏(43)が2月中旬、地元のカフェで興奮気味に語った。

地元ヌシャテル州とスイス連邦政府はまだ「禁酒時代」だった2000年、安価なチエコ製品などから守る「原産地統制名称」の制度を活用する方針で合意。その後、各方面との調整を経て、ようやく業界が制度適用の書類提出にこぎ着け、保護活動は動きだした。

最大手とはいえ、まだ大型醸造機が2台しかない本社工場で、キュブラー氏は「日本に販路ができれば、もう1台必要になるかもね」と、にやりと笑った。

(バルドトラベール共同＝新井琢也)  
(土曜日に掲載します)

草や香草。独特の苦味と香り、50%を超える強いアルコール度が特徴。かつて欧州ではワインやビールに次いで大量に飲まれたという。禁酒時代は「ポトルの中の悪魔」に忌み嫌われた半面、芸術家などが好んで飲んだとされ、産地では当局との「紳士協定」の下で、実は少しずつ造り続けていた（地元醸造業者）。

アブサンの危険性に科学的根拠がないことが証明され、解禁されて5年。アブサンの消費は国内だけでなく米国